

高松塚古墳壁画の修理及びキトラ古墳壁画の集中メンテナンス等について 古墳壁画PT修復班

○ 高松塚古墳壁画

1) 漆喰の強化（材料検討と適用）

昨年度までの作業では、漆喰の安定化とバイオフィルム（ゲル）の除去を並行して行ってきた。しかし、昨年度より報告しているようにゲルが粗鬆化した漆喰の上に発生している場合、水で膨潤させつつ漆喰の強化を行う必要があり、この場合、有機溶媒を用いるパラロイドB72は使用が不可能である。本年度は、パラロイドB72による強化処置が難しい箇所について、膠による強化を行う予定である。現在、実験室でのプレテストを終了し、その結果を踏まえて修理技術者とともに実作業に用いる種類の選定とその手法について検討中である。使用する膠が確定次第、作業に入る予定である。（図1、3参照）

2) 漆喰安定化の検討

石材処置の方針に合わせて、最終的な調整を検討する。

3) 現状の状態記録作成

平成19年度の石室解体後に損傷状態の記録図面を作成したが（図2参照）、今後の保存活用の際のメンテナンスのために、この記録図面を現状に合わせて更新する。

○ キトラ古墳壁画

1) キトラ古墳壁画の集中メンテナンス

再構成された壁画のメンテナンスを今年度5回予定している。

第1回目： 6月25日 ～ 29日

第2回目： 7月 9日 ～ 13日

第3回目： 8月27日 ～ 31日

第4回目： 10月29日 ～ 11月2日

第5回目： 3月25日 ～ 29日

2) 泥に覆われた十二支「辰」「巳」「申」に関する調査

「辰」「巳」「申」については、材料班と合同で調査方法を検討中である。現在、実資料を模した試料作成を行っている。この試料を用いて撮影条件を検討後、調査を行う予定である。

図1 現状の課題について

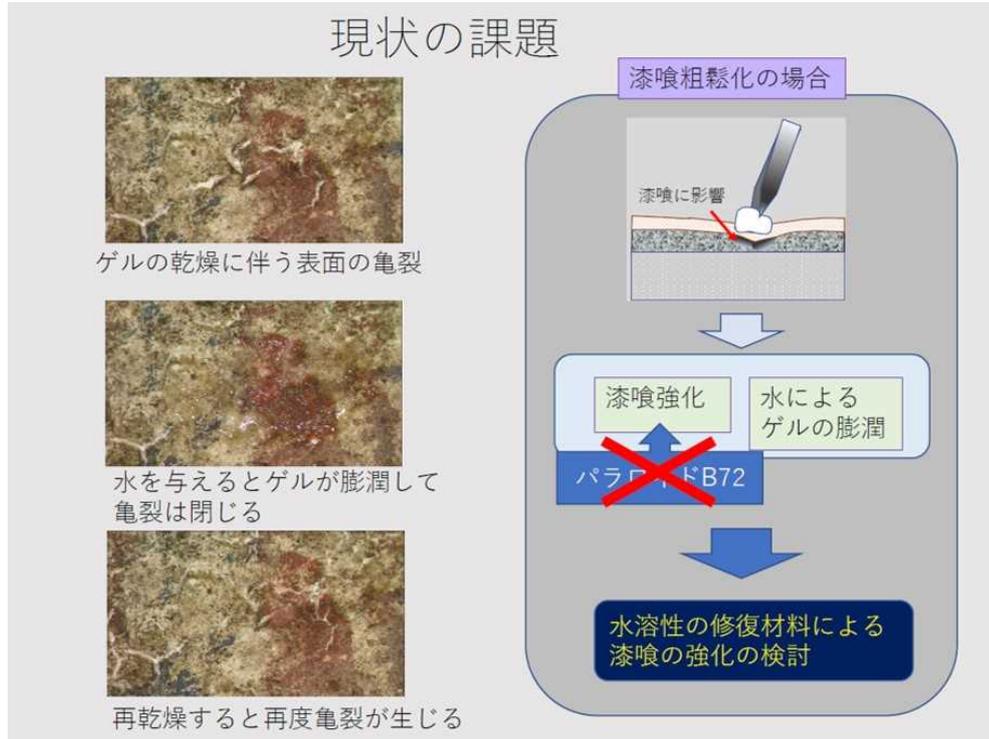


図2 解体後の損傷記録図面

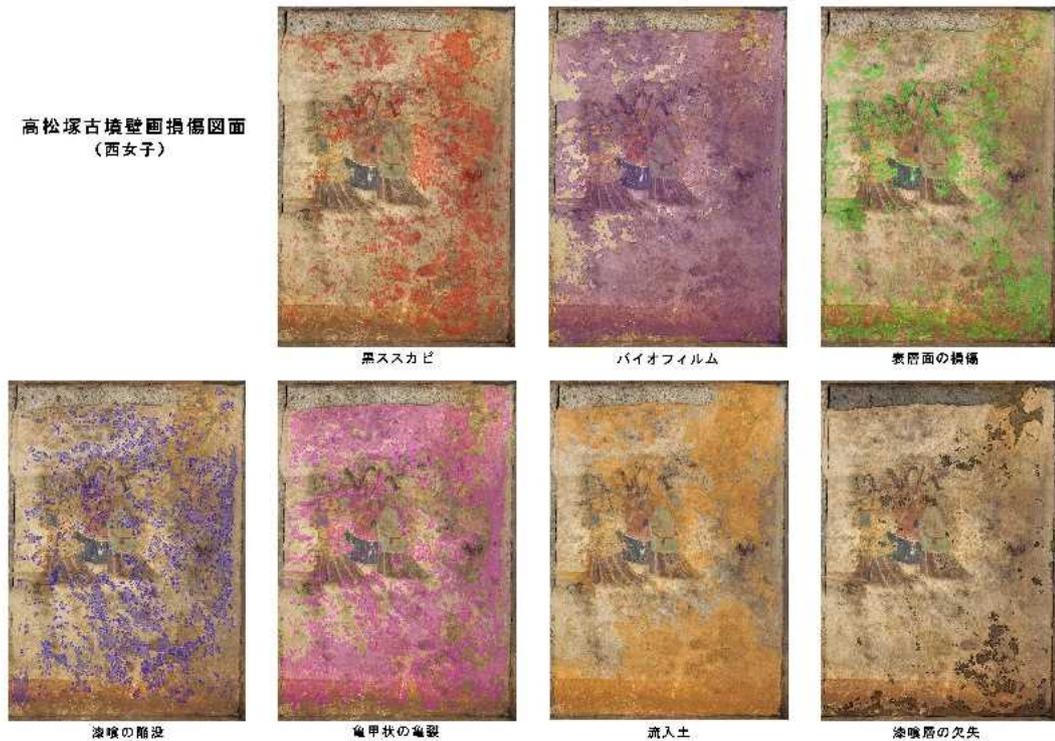


図3 剥離がみられる箇所（東女子群像） ※膠による強化処置を想定
（図内赤塗部分：漆喰の剥離、浮き）

東女子 剥離箇所調査図面

180616 ~



2017/08/15

※ 180606 撮影の全図をトミング